

はじめに

我が国の湖沼や河川は、周辺の豊かな自然環境に支えられ、漁業、遊漁或いは憩いの場として昔から国民に広く利用されています。しかし、昭和40年代の高度経済成長以降の開発優先の国土利用として観光地化、河川改修などが進められ、富栄養化や再生産の場の消失など魚類の生息に適した環境が失われました。林道の整備が進み、レジャーの多様化などにより山奥の湖沼や河川上流域での遊漁が盛んになり、清冽な水域に生息する在来のマス類を代表するサクラマス、ヤマメ、ビワマス、アマゴ、イワナなどの生息数が減少しています。更に、無秩序な放流が行われ本来の自然分布が乱され、生態系の攪乱や自然資源への悪影響が危惧される例も報告されています。

多くの国民が親しみ、利用する我が国の湖沼や河川、そこに生息する在来のマス類は、人為的影響を受けやすく、清澄な水と豊かな生物相を持つ自然環境を維持し、次世代にその豊かな恵みを継承することが難しくなっています。21世紀においても豊かな自然環境や資源を如何にして維持・保全し、且つ適切に利用するかという命題を解決する手がかりは、生息生物と生息環境・社会環境の歴史的変遷や現状並びに増養殖技術等に関する研究成果を科学的知見に基づいて収集・整理することによって得ることができるものと考えられます。

本事業では、日本財団の「海や船に関する事業に寄与する事業」の助成を受けて、清澄な湖沼や河川に生息し、内水面漁業における重要な資源であり、古くから遊漁の対象ともなっている在来マス類のうちサクラマス、ビワマス及びそれらの地方種について、それらに関する生物学的・生態学的情報やそれらの利用並びに増養殖に関する研究成果等を収集・整理し、関係機関による資源の維持・管理、生息環境保全或いは国民の自然環境保護や適切な利用に関する理解に役立つ湖沼と河川環境の基盤情報を整備・提供することとしました。

本報告書では、これらの在来マス類の生態学的知見、漁業の変遷、地域の特産品としての利用、水産試験研究機関での増殖技術や飼育技術の研究成果、それらを応用した増殖事例や保護調査等に関して取りまとめました。さらに、分類や自然界において彼らが果たしている役割等についての最新の研究成果を紹介しました。

2 ヶ年にわたる関係情報・資料の収集或いは現地調査等について多大のご協力をいただいた独立行政法人水産総合研究センター中央水産研究所内水面研究部、独立行政法人水産総合研究センターさけますセンター本所、同千歳事業所、同尻別事業所、同渡島事業所、同八雲事業所、同北見事業所、同斜里事業所、同虹別事業所、北海道水産振興課、青森県水産振興課、同県水産総合研究センター内水面研究所、同県下北地域県民局地域農林水産部むつ水産事務所、長野県水産試験場、同県水産試験場諏訪支場、富山県農林水産部水産漁港課、同県水産試験場、滋賀県農政部水産課、同県水産試験場、大分県農林水産研究センター水産試験場内水面研究所、日本海さけ・ます増殖事業協会、青森県大畑町漁業協同組合、同県老部川漁業協同組合、中禅寺湖漁業協同組合、富山県大門漁業協同組合および同県富山漁業協同組合の各位に深く感謝申し上げます。

また、専門的分野について執筆いただいた大学、研究機関等の専門家並びに湖沼と河川環境の基盤情報整備事業専門委員会委員として、執筆とともに専門的立場から種々ご指導いただきました加藤禎一、白旗総一郎、眞山紘、野村哲一並びに河村博の各氏に心より厚くお礼申し上げます。

終わりに、本事業の成果が自然環境に対する理解を深め、環境の保全と利用の在り方を考える一助となることを期待します。

平成20年4月

社団法人 日本水産資源保護協会
会 長 川 本 省 自